

区域外就学の仲間と再会

南相馬

小中学生、大きな歓声

東京電力福島第一原発事故に伴う避難で、南相馬市から区域外就学している児童、生徒と母校の児童らの交流会が二十四日、南相馬市で開かれた。全域が避難区域の小高区の五小中学校は同市鹿島区で、学区内の



自分たちで作ったペットボトルロケットを発射する小高区の子どもたち。さくらホール

小高区 ペットボトルロケット発射

原町区 一緒にゲーム、校歌を合唱

一部が避難区域にある原町区の三小中学校は同区内でそれぞれ合同の交流行事を催し、子どもたちが絆を強



母校の校歌を合唱する原町区の子どもたち。原町三中

めた。

市教委の主催。小高区の交流会はさくらホールで開かれた。小高、福浦、金房、鳩原各小と小高中から区域外就学している児童生徒約四十人を含む約四百人が参加した。探査機「はやぶさ」元プロジェクトマネジャーの

川口淳一郎さんとSF作家の野尻抱介さんが宇宙について講演した。引き続き、児童らは保護者や友人と力を合わせてペットボトルロケットを手作りし発射した。バスで小高区内の見学ツアーも実施した。小高小から茨城県取手市に区域外就学中の鈴木莉子さん(6)は「小高がどんな状況か知ることができなかった。参加して良かった」と古里の現状に触れたツアーを振り返った。

原町区の交流会は原町三中で開かれた。大甕、太田両小と原町三中から区域外就学中の児童生徒約四十人を含む約三百五十人が参加した。祈りをテーマにした演劇を観賞した後、じゃんけん大会などのゲームを楽しんだ。

原町三中吹奏楽部が各校の校歌を演奏し、卒業生や避難で離れ離れになった子どもたち全員で母校の校歌を合唱した。太田小から秋田県能代市に区域外就学している高橋未来さん(6)は「やっぱり地元のみんなと一緒に楽しい。また会いに来たい」と再会を誓っていた。